

平成22年度

秋季京都府高等学校野球大会 速報

2次戦

9月25日（土） 2回戦 対福知山成美 （太陽が丘球場）

痛い序盤の失点 追いつけず突き放され

○福知山成美 310 000 003=7

●立命館宇治 000 111 000=3

【福】津田-細田【立】福本、西垣-小林

▼本塁打 松井（立） 桑原（福） ▼3塁打 福本

（立）

▼2塁打 松井（立） 濱田（福）

立命館宇治の先発の福本は、初回先頭打者に安打を許すと、2番から6番まで5連続四死球で簡単に3点を献上。続く2回にも犠飛で追加点を許し、序盤から4点を追う苦しい展開となった。

反撃ののろしが上がったのは4回。3番・松井の本塁打で1点を返すと、続く5回には福本の右中間3塁打と内野ゴロで2点目。6回には再び松井の左翼線2塁打を送った後、5番・小林の犠飛で1点差とした。7～8回にも先頭打者を安打で出し、スコアリングポジションまで進めるも後続なく凡退。逆に3回以降踏ん張ってきた福本が9回に本塁打を浴びて2点差とされると、四球・失策で一気に突き放された。

1次戦から課題であった福本の立ち上がりであったが、初回の5連続四死球で完全に相手を優位にさせてしまった。1次戦31回で三四球であり、この日も3回以降は本来の持ち味を出せただけに、何とも痛い立ち上がりの投球となってしまった。



※写真は本塁打を含め、3安打を放った松井悠真（1年）

1次戦

9月12日（日） 決勝戦 対西城陽 （立命館宇治グラウンド）

西城陽3投手に12安打浴びせ、コールド

●西城陽 001 000 0=1

○立命館宇治 031 003 1=8x (7回コールド)

【西】出口、等々力、堀井-大塚【立】福本-小林

▼本塁打 古川(西) ▼2塁打 古川(西) 松井2

(立)

立命館宇治は2回1死1・3塁から1番・土肥が1・2塁間を抜いて先制。さらに機動力と松井の長打で2点を追加した。続く3回には2死3塁から8番・榎田が中前へタイムリー。6回には3安打と2四死球でリードを広げ、7回には1死1・2塁から松井が3塁線を破って、コールドゲームとした。

先発した福本は3回に本塁打を浴びて、今大会初失点を喫したものの、終わってみれば7回被安打5、5奪三振、1四球と安定した投球を見せた。福本は1次戦3試合で21回を投げ、被安打9、31奪三振、自責点1で防御率0.43。またバックは3試合連続無失策。

これで立命館宇治は秋季大会に限れば11年連続で1次戦を1位通過し、23日から始まる2次戦へ挑む。

8月29日(日) 2回戦 対須知 (立命館宇治グラウンド)

福本、3塁踏ませず8回17奪三振

●須知 000 000 00=0

○立命館宇治 200 000 05=7x (8回コールド)

【須】中尾-久保田【立】福本-小林

▼本塁打 福本(立) ▼3塁打 榎田(立)

▼2塁打 古川(立)

初回2死2塁から4番・古川の右翼線2塁打と敵失で2点を先制した立命館宇治は、その後須知のエース中尾を打ちあぐね、0行進。特にフライアウトが多く、犠打のミスも出るなどストレスの溜まる展開となった。8回に5番・小林がランエンドヒットを決め、無死1・3塁とすると、内野ゴロの間に1点を追加。さらに2死1・2塁から8番・榎田の右前打が目測ミスで3塁打となる間に2点。走者一人を残して、9番・福本の中越へ2点ランニング本塁打でコールドゲームとした。

1回戦に続いて先発した福本は、立ち上がり不安定なのは相変わらずであったが、3回以降快調に飛ばし、8回まで3塁を踏ませることなく7者連続を含む17奪三振を記録。被安打3で1回戦に続き無失点で切り抜けた。もり立てるバックは2試合連続の無失策だが、攻撃では相手投手の球筋を見極められず、無為にアウトを繰り返した。



※写真は先制2塁打を放った古川昂樹(2年)

8月28日(土) 1回戦 対嵯峨野 (立命館宇治グラウンド)

2巡目から猛攻開始!! 7回コールド

●嵯峨野 000 000 1=1

○立命館宇治 000 411 2=8x (7回コールド)

【嵯】奥村-舟川【立】福本、西垣-小林

▼本塁打 村田(嵯) ▼3塁打 小林、榎田(立)

▼2塁打 花岡、田中(立)

立命館宇治は2巡目となる4回から相手投手を果敢に攻め、4回1死満塁から7番・田中が押し出しの四球を選んで先制すると、続く8番・榎田が右中間を破り、一挙4点をリードした。続く5回には相手失策で、6回には長短3安打でさらに加点。7回には5番・小林の左中間3塁打と6番・植本のタイムリーで勝負を決めた。

先発した福本は初回に先頭打者に内野安打を打たれた以外は、6回で打者19人、9三振を奪い2塁を踏ませなかった。7回からリリーフした西垣は嵯峨野の3番に本塁打を献上。課題を残した。

立命館宇治は昨秋の近畿大会準決勝・大阪桐蔭戦からの公式戦連敗を4でストップした。



※写真は先発した福本拓也(2年)

1次戦登録メンバー

No.	守備氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投 福本 拓也	2	山崎 東 (兵庫)	中学野球
2	捕 小林 真人	2	島本 二 (大阪)	中学野球
3	一 植本 真澄	2	立命館 宇治	ボーイズ オール大和
4	二 土肥 純平	2	男山 三	中学野球
5	三 山本 大河	1	安祥 寺	ボーイズ 大津瀬田レイカーズ
6	遊 古川 昂樹	2	上牧 二 (奈良)	ボーイズ 香芝
7	左 花岡 紘一朗	1	奈良教育大付属 (奈良)	ボーイズ 葛城JFK
8	中 榎田 純也	2	葛上 (奈良)	ヤング 御所南都クラブ
9	右 松井 悠真	1	楠 葉 (大阪)	ボーイズ オール枚方
10	投 川部 開大	2	島本 二 (大阪)	シニア 高槻
11	投 浅井 敬三	2	八条	ヤング 京都ベースボールクラブ
12	投 西垣 翔太	1	和田山 (兵庫)	ボーイズ 朝来
13	捕 金田 堅之介	2	東 宇治	シニア 京都東
14	内 田中 遼太	2	大枝	ボーイズ 京都ホークス
15	内 中森 胤人	2	山城	ヤング オール山城
16	内 蔵立 涼太	2	松原	ボーイズ 京都スターズ
17	外 田邊 隼人	2	神川	ボーイズ 南山城ドラゴンズ
18	外 北村 和也	2	城南 (広島)	少年野球 松水ヤンキース
19	投 堀 憲人	2	立命館 宇治	ボーイズ 京都ベガサス
20	捕 村田 昌史	2	大阪桐蔭 (大阪)	シニア 甲子園

[硬式野球部 TOP PAGE](#)△

2010年9月度のトピックス

2010年度秋季京都府高等学校野球大会 特集 10.9.25更新終了

9月21日

昨秋決勝の再現!! 健闘を誓い合う



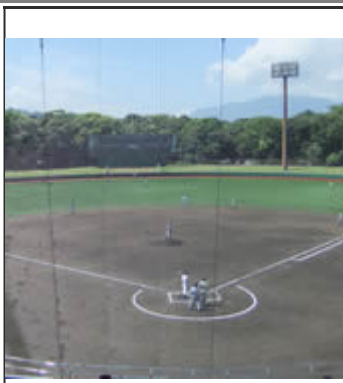
秋季大会2次戦の抽選会が行われ、初戦の対戦相手は福知山成美と決まった。昨年秋の決勝戦で対戦しており、その時からレギュラーには多くの1年生が名を連ねており、実力はトップクラスと目される。周囲からは注目されるカードとなったが、古川主将も福知山成美の主将も落ち着き払ったもの。座席が全後であったふたりは抽選会后、言葉を交わし、互いの健闘を誓い合った。

[硬式野球部 TOP PAGEへ](#)

2010年8月度のトピックス

8月26日

練習試合39試合を戦い、秋季大会突入



新チーム以降の練習試合はスタートの7月29日が雨天中止となった以外は、予定していた試合は全て行われた。全員にチャンスが与えられたのは広島遠征まで。以降は秋季大会を見据えて「最終テスト」が繰り返され、ここ数試合は完全にベンチ入り予定者のみで試合が行われている。広島県遠征以外はホームで行われていたが、24日とこの日はアウェイ。奈良県のチームに橿原球場に招いていただいた。今日の2試合で39試合を行ったことになり（34勝4敗1分）、何とか夏の雪辱を晴らすべく、いよいよ秋季大会に突入する。

8月11日

広島遠征3 8勝1敗で広島遠征を終了



広島遠征の最終日は強豪・崇徳との対戦。互いに「この日のために」と調整してきた主戦級を登板させての対戦となった。この遠征でのチームとしての成長は前半の投手戦に我慢し、相手投手が疲労してくる後半に粘って得点するという展開。この試合も後半に一気にたたみかけた。これで広島遠征は9戦して8勝1敗。三原監督率いる山陽の2試合目に敗れたが、それ以外は持ち味を発揮して大きく勝ち越した。特に西垣と福本という左右の2枚看板に加え、それ以外にも堀・浅井と完投勝利を収めた投手の出現、そしてレギュラーが未定であったポジションにある程度の目途が立ったことが収穫であった。

8月10日

広島遠征2 一日3試合で全員出場を実現



今年の新チームは近年最高の56名で、今回の広島遠征も大型バス2台での移動となっている。全日試合のため練習はない。スタッフの思いは「折角遠征に来ているのだから、できることなら全員に出場機会を」というもの。勝負に徹するなら実現は不可能で、相手チームの理解と勝負を度外視した教育的配慮も必要ってくる。この日の対戦相手は高陽東。同じく58名の部員がおり、悩みは同じ。ということでこの日は当初の

ダブルヘッダーに加えてもう1試合を行った。ベンチの采配も卯瀧監督に加え里井コーチも。全部員の名前を書いたマグネットを動かしながら、まだ一度も経験のない1年生も含めて、怪我人以外は全部員に出場機会を与えた。

8月8日

広島遠征1 昨年大敗の関西に挑む



昨年の広島遠征初日に対戦した関西は1年生サウスポー堅田と強力打線で新チーム初のワールド大敗で、チームに衝撃を与えた。今年の遠征初日も選抜大会時において実現していた関西戦。しかもメンバー6名が残るの攻撃陣に加え、サウスポー堅田投手と140km右腕の水原投手を残す強豪。保護者の協力で早朝5時に出発した立命館宇治ナインは今チームの実力を計る一戦として挑んだ。先発した堅田投手から初回到3点を奪い、追いつかれた8回にはリリーフした水原投手から古川主将が渾身の一撃でけりを付けた。さい先の良い遠征となった。

硬式野球部 TOP PAGE^

7月18日(日) 2回戦 対綾部 (わかさスタジアム京都)

攻守に良いところ発揮できず、完敗

○綾部 000 301 003=7

●立命館宇治 100 001 000=2

【綾】小坂-岩松【立】川部、福本-小嵯

▼3塁打 黒田(綾) ▼2塁打 小坂、佐久間(綾)



立命館宇治は相手失策で幸運な先制点を奪いながら3回に逆転を許すと、以降全く良いところなく、初戦で綾部に完敗した。

初回到2本の安打と相手失策で先制したが、以降はさしてスピードのない相手投手の投球にはまり、フライアウト14と中盤以降チャンスらしいチャンスも見いだせなかった。1番・土肥、2番・服部、3番・小嵯が2本ずつ安打を放ったが、4番以降は無安打。

先発した川部は立ち上がりこそ快調なペースでとばしたが、4回に同点に追いつかれると冷静さを欠き、連打許した。リリーフした福本も懸命に頑張ったが、失策も絡み、踏ん張りきれなかった。

立命館宇治が夏に初戦敗退するのは5年ぶり。春の選抜以降、チームの再強化をはかり、「投手力上昇気流」「打線好調」「油断無し」と挑んだ大会であったが、トーナメントに悲慘にもはまってしまった。

※写真は先発した川部開大(2年)

大会登録メンバー

No.	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム	
1	投	川部開大	2	島本二(大阪)	シニア	高槻
2	捕	小壽裕之	3	下京	少年野球	西京ビッグスターズ
3	一	服部憲悟	3	横島	ボーイズ	南山城ドラゴンズ
4	二	清水祐太	3	今津(大阪)	ボーイズ	八尾フレンド
5	三	土肥純平	2	男山三	中学野球	
6	遊	古川昂樹	2	上牧二(奈良)	ボーイズ	香芝
7	左	西川進士郎	3	佐井寺(大阪)	ボーイズ	吹田千里山イーグルス
8	中	岩本翼	3	高野	中学野球	
9	右	田口真基	3	久御山	少年野球	西京ビッグスターズ
10	投	中野翔悟	3	京都教育大附桃山	ボーイズ	オール枚方
11	投	福本拓也	2	山崎東(兵庫)	中学野球	
12	投	西垣翔太	1	和田山(兵庫)	ボーイズ	朝来
13	捕	小林真人	2	島本二(大阪)	中学野球	
14	内	田中遼太	2	大枝	ボーイズ	京都ホークス
15	内	奥村大志	3	洛北	少年野球	京都西ベースボールクラブ
16	外	松井悠真	1	楠葉(大阪)	ボーイズ	オール枚方
17	外	坂井勇太	3	枚方三(大阪)	シニア	枚方
18	外	本庄良仁	3	立命館宇治	中学野球	
19	投	堺浩貴	3	勝山	少年野球	長岡京シリウス
20	内	植本真澄	2	立命館宇治	ボーイズ	オール大和

2010年7月度のトピックス

第92回全国高等学校野球選手権 京都大会 特集 10.7.18更新終了

7月31日

落ち着いた雰囲気です抽選会に挑む



昨年から秋季大会の抽選会は選手権京都大会終了後に日を改めて行われている（それ以前は夏の抽選会と同日抽選）。この日は朝から練習試合が行われていたが、前半に大差がついたこともあり、古川主将は寺本副部長とともにグラウンドを早々に離れ、抽選会場に登場した。小寄主将はこの抽選会を皮切りに、1年間で合計6度の抽選会に挑んだが、古川主将はどうか。確か去年は予備抽選で2番を引いたが、今年は後ろから4番目。しかし何も動じることはなく、落ち着いた雰囲気ですくじを引いた。

7月30日

7月デビューの新設備。SBO登場



昨秋にスコアボードが完成したときに「ボールカウント表示のSBOは次に甲子園に行ったときのお楽しみ」と言われていたが、今春の選抜出場で実現した。「応援する会」の協力を得て、6月に着工。「3年生のいる間にデビューを」と7月5日の練習試合で使用されたが、この日から始まった練習試合ではフル稼働なる。今までは「試合を見に行っても得点もボールカウントもわからない」と言われたが、これでもう大丈夫。

7月30日

新チームの練習試合、連勝でスタート



昨日は初の練習試合と意気込んだが、未明からの雨で流れ、本日が初試合となった。強化練習を経て、例年通り上級生からチャンスを与えられる。旧チームからのレギュラーが大量に残っていた昨年度とは異なり、今年はほぼ白紙状態からのスタートで、チャンスは大いにある。この日のダブルは投手は2~3イニングずつの登板で、第1試合はゼロ封。第二試合も5名の投手を小刻みにつぎ込んだ。徐々に淘汰されていき、広島遠征後には数名に絞り込まれる予定だ。

7月28日

3年生の協力。10日間の強化練習終了



選手権京都大会に敗れてグラウンドに戻った夕刻遅く、新チーム主将に古川昂樹が指名され、翌日から10日間の強化練習が始まった。この練習に欠かせないのが、休むことのない連日の100本ノック。野手組全員に100本ずつ打ちのはかなりの体力がいる。そこで貴重なノッカーとなるのが3年生。午前中はTOEFL講座で勉強し、午後はグラウンドに駆けつけて後輩のために汗を流してくれている。連日の酷暑に里井コーチも「3年生ノッカーなしには強化練習そのものがありえなかった」と。チームは明日29日に初の練習試合を迎える。

7月20日

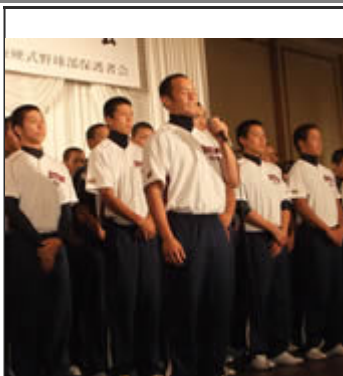
3年生部員が綾部高校の応援に



選手権京都大会初戦で敗れた3年生だが、この日の太陽が丘球場は本来なら自分たちが3回戦を戦うはずであった場。綾部VS鳥羽の試合に、3年生部員6名が綾部の応援に駆けつけた。単に試合を観戦するのではなく、生徒応援団の中に入り、緑のメガホンを借りて、精一杯声を張り上げた。「自分たちを破ったチームが少しでも勝ち進んでほしい」という気持ちからか。この日の綾部は伝統校の鳥羽に競りがち、見事4回戦への進出を果たした。

7月3日

200名の盛況で夏の激励会を実施



雨で練習試合が中止になったこの日だが、夕刻からパルティール宇治で恒例の夏の激励会が行われた。OBやクレオテックから来賓にも出席いただき、激励の熱い挨拶をいただいた。しばし食事で歓談した後、3年生の保護者から歌とエールで激励があり、願いを込めた千羽鶴も手渡された。最後に卯瀧監督と小寄主将からお礼と夏に向けての決意が語られ、盛況のうちに会は終了した。

チームは明日最後の練習試合に挑み、来週土曜日からの大会に備える。

2010年6月度のトピックス

6月27日

アウェイ試合は1勝1敗。PL学園戦に明暗



アウェイ最後の練習試合はPL学園戦。同校は選抜出場は逃したものの、プロ注目3選手を要する大阪大会の優勝候補筆頭校。前夜来の雨が心配されたが、PL部員が懸命のグラウンド整備をしてくれ、何とか2試合できた。結果は1勝1敗。第1試合は序盤互角の展開だったが、送りバントのミスを重ねてチャンスを潰すうちに、逆にこちらのミスから一気にたたみ込まれ、大敗。第2試合は小崎、西川の本塁打で試合を優位に進めるも、中盤に追いつかれたが、終盤にリリーフエースとして出てきた勸野投手から連打を浴びせて再逆転した。序盤にゲームを作った西垣の安定感と先週の3安打完封に続き、好リリーフした川部の上向き調子が収穫であった。

6月26日

結果は100点満点!? 夏の抽選会に参加



京都外大西で第92回選手権京都大会の組み合わせ抽選会が行われた。小崎主将にとっては秋季大会1次戦の抽選会から数えて6度目の抽選会で落ち着いたものの。今大会はノーシードで挑む大会とあって、抽選順は46番目。初戦は不戦勝で大会は2回戦からの登場で、綾部と洛星の勝者との対戦との対戦が決まった。部長から連絡を受けた卯瀧先生は勝ち上がりを予想しながら、「次々とそこそこの相手とやれる。うちにとっては100点満点の結果。あいつ、くじ運がええなあ」と語った。

6月20日

アウェイで鍛える。最後の試金石へ



5月下旬から始まった甲子園常連校シリーズは14勝2敗（天理と金光大阪の2試合目に敗戦）であるが、すべてホームでの試合。アウェイで自分たちの実力がどれだけ発揮できるのかは未知数であり、今週・来週とアウェイの試合が組まれた。移動は先の夏の強化メンバーのみ。試合前や試合中のベンチワークも全て夏を想定してこのメンバーで行う。結果は投手陣をやりくりしながら何とか連勝。いよいよ6月最終週の神戸国際大附とPL学園のアウェイがまさに最後の試金石となる。

6月12日

新戦力を加え、夏の登録メンバーを投票



5月中旬に投票によって絞り込まれた夏の強化メンバーは2～3年生の20名ほどに、監督コーチ指名の1年生数名が連日個人ノックを受けている。今年の夏の登録メンバー提出期限は6月18日（金）。今週末の練習試合がまさしく最終関門となった。春以降に頭角を現した2年生に加え、1年生も練習試合で「欠かせぬ戦力」となっている者もいる。恒例の部員による互選のメンバー投票は、2～3年生全員に投票権があり、即日開票がされた。そして4月から週に一度のペースで休養日を設けてきたが、小寄主将・服部副主将の要望により、夏まで休養日なしで一気に突っ走る。

6月12日

ようやく上昇気流か!? 夏に向けて



選抜から戻って落ち込んだチーム状態はGWあたりが最悪で、投手陣の壊滅に加え、「打てない」「守れない」状態であった。春季大会で府立工に敗れた後、滋賀県の優勝チーム・北大津にもロースコアの1点差で敗れた。しかし5月中旬辺りから少しずつ打線が上向き、東邦（愛知）専大松戸（千葉）高岡商（富山）松山商（愛媛）に打ち勝った。6月に入り、投手陣も少しずつ奮起。天理（奈良）金光大阪にも粘り強く勝ち抜けるようになった。6月下旬に向けて神戸国際、PL学園との強豪校との練習試合がまさしく夏への試金石となる。

2010年5月度のトピックス

5月27日

金子侑司先輩が関西学生ベストナイン



関西学生野球の春季リーグは昨日の立同戦で終了。結果は秋への奮起を期待ということになったが、金子侑司OB（2回生）がベストナインに選出された。全12試合に出場し、50打数16安打で打率は3割2分。打率ベストテンの8位で、勿論初の選出であった。後輩一同心から祝いたい。また今シーズンは松島駿介OB（3回生）がセンターで定位置を獲得し、1番・金子～2番・宮本剛（サード・4回生）～3番・松島と卒業生が並ぶことも。また投手陣では山田遼摩OB（3回生）がローテーション入りし、代打ではしばしば松本陸OB（3回生）が活躍した。

※ 写真は高校時代の金子OB（対龍谷大平安）

5月17日

Baseball Clinicにセンバツの広陵戦再現



17日に発売されたベースボールクリニック6月号に「甲子園"監督の目"そのときベンチは」として1回戦の広陵対立命館宇治が取り上げられた。共に甲子園経験の豊富な監督同士の対戦で、両監督の証言から「序盤」「中盤」「終盤」に分けて6ページにわたってゲームが分析され、最後には総括もされている。立命館宇治にとっては負け試合だが、その時相手ベンチはどのように考え、動こうとしていたかを読み取り興味深い内容となっている。

5月13日

皇子山球場で1年ぶりにナイターを体験



毎年この時期に滋賀県のチームから平日夜にナイターの練習試合に招いていただく。今年も4月に北大津から招待されたが、雨で流れた。本日13日夜に再びお招きいただき、1年ぶりにナイターを体験できた。25名に絞り込まれた部員は放課後すぐに貸し切りバスでグラウンドへ移動し、荷物を積み込んで球場へ。試合の中盤には完全に暗くなり、カクテル光線の中で試合を行った。春季大会で優勝し、近畿大会出場を決めている北大津の胸を借り、有意義な一日となった。

5月12日

選拔出場記念誌の初稿が完成



夏の強化メンバーが発表なり、春季大会の雪辱を晴らすべく練習に打ち込む部員には選抜大会はもう一旦封印した「過去のこと」である。しかし学園は前回の初出場の時には実現しなかった記念誌の発行に向けて準備を進めている。学園の広報室が毎日新聞社の協力を得て、記事や写真をレイアウトし、このほど初稿が部長の手元に届いた。最終ページには2～3年生全員の顔写真も掲載されている。完成すれば部員や関係各所に送られる予定である。

5月11日

最終コーナーで逆転!! 2年ぶりに1位



小雨の降る中、生徒会主催の高校体育祭が実施された。各クラブにとってその威信をかけて走るのがクラブ対抗リレー。過去12年で10度の優勝を誇る硬式野球部だが、昨年は予選で痛恨のバトンミスをおかし、優勝を逃した。

今年はその王座奪還をかけたレース。ライバルはサンガユースだが、リレー開始から着実に順位を上げ、アンカー服部憲悟（3年）にバント。前半を抑え気味で走った服部は最終コーナーで見事逆転。大いに盛り上がった。

硬式野球部 TOP PAGE^

2010年4月度のトピックス

4月18日

真の實力は...。手応えなき勝利の連続



春以降の試合戦績は21戦17勝2敗2分。練習試合の2試合目にメンバーを大幅に入れ替えて負けた以外は、実質的には選抜大会の広陵戦が唯一のガチンコ敗退。春季大会の1次戦が免除のため、この日曜日も練習試合を行ったが、三重県の宇治山田商業に勝った。しかしどうもずっきりしない。投手陣、特に選抜でベンチ入りしていた3年生投手陣がぴりっとせず、またレギュラーを奪おうかという勢いのある新戦力が下級生に乏しいせいかもしれない。「こんなもんだ」という錯覚がチームに蔓延し、向上心や競争心が薄れることが一番怖い感じがする。

4月12日

休養日の設定。新学生野球憲章を受けて



4月1日からの「新学生野球憲章」実施に伴い、定期テスト前と年末年始以外の休養日のなかった卯瀧野球にも休養日が導入されることになった。練習過多になることを懸念し、学業との両立という観点からも休養日の設定は不可欠であるとされたものだが、入部以来「休養日なし」が当たり前だった部員には突然のこと。当面4月については「月曜日」とするが、学年で休養日を別にするか、天候と関係によるかなど検討すべき課題はある。これを後退としてはいけない。あくまでも「前進」とすべきである・

ご声援ありがとうございました



(写真提供:ベースボール倶楽部)

1点届かず、無念の敗退

大会第2日第3試合

(中国・広島)

○広島 103 030 000=7

●立命館宇治 401 000 001=6

(近畿・京都)

【広】有原-新谷【立】川部-小寄

▼2塁打 丸子2 (広) 小寄、清水 (立) 試合時間 1時間51分

開会式で堂々の行進



第82回選抜高等学校野球大会 特集

[Senbatsu 2010 Topics](#) (10.3.21更新)

[大会までの日程](#) (10.2.24更新)

[報道の記録](#) (10.3.24更新)

[秋季大会の軌跡](#) (10.1.29更新)

『春、ふたたび』プロモーションDVD・公開終了

Senbatsu 2010 Topics

3月21日 (日)

新ユニフォームで堂々の行進



前夜からの雨が心配であったが、未明には止み、開会式を迎えた。太陽には恵まれなかったが、部員たちはこの日から初お目見えの新バージョンユニフォームで行進した。「Ritsumei」という胸文字を寄り目立たせるために、大学のユニフォームと同じくエンジの縁取りからシルバーにし、袖文字も「KYITO UJI」を「UJI」のみにし、大きくした。ユニフォーム全体の色も従来より明るいグレーにし、イメージとしては神奈川の横浜高校のグレー。この新ユニフォームで明日の初戦に挑む。

3月20日 (土)

開会式リハーサルで入場行進



大会序盤の天候が心配されるが、この日は暑いぐらいの日差しの中、開会式のリハーサルが行われた。午前9時より記念撮影。10時より入場行進が始まった。選抜では数年前より先導するプラカードは学校から選出された生徒が持つことになっており、立命館宇治は部員の金城岳野が担当する。事前に大会本部より配られたDVDでしっかりと事前学習しており、堂々と部員を先導した。立命館宇治は6年前の初出場時は開会式リハーサルを雨天で行えておらず、今回が「初」であった。

3月19日 (金)

生徒寮も宿泊部員に全面協力



ホテルでの生活が始まったが、悩みは練習着の洗濯。ホテルの地下には洗濯機3台があるが、28人の洗濯には時間がかかる。考えられるのが日中の洗濯だが、コインランドリーは近くても自転車での移動になり、万が一のことを考えると心配。そこで考えたのが生徒寮の利用。寮担当の教員に相談したところ、快く引き受けてくださり、この日は午後から寮で洗濯させてもらった。一部にメンテナンス工事が始まっていた

が、工事関係者の方々も「どうぞどうぞ」と招き入れてくださった。

3月18日（木）

28名で新大阪の宿舎入り



抽選で大会2日目の試合になったため、当初の予定を一日早めて本日宿舎入りした。宿舎は京都府代表チームが定宿としているトーコーシティホテル新大阪。一昔前は甲子園球場近くの旅館に泊まるのが甲子園の光景であったが、最近ほとんどのチームが少し離れていても「ホテル」を選ぶ。トーコーホテルは6年前の初出場時もお世話になっており、また鳥羽時代の卯瀧監督も世話になってきた。



「祝・立命館宇治高等学校様」の看板に迎えられ、ベンチ入りメンバーを中心に28名に絞られたナインはそれぞれシングル部屋に入り、さっそく夕食。カロリー消費量の多い高校生でも十分なボリュームのメニューで部員も美味しそうに平らげた。（正直、部長監督には少々きつい...）

外出は一切禁止で、認められているのはホテル前の高架下でのスイングのみ。洗濯を終えた後はミーティングと続いた。

3月17日（水）

甲子園練習で卯瀧ノウハウ発揮



部員47名でリニューアルされた甲子園球場に乗り込み、汗を流した。今大会で各チームに割り当てられた練習時間は30分間で、この中でいかに効率よく動かす事前にスタッフで試行錯誤された。過去8度出場のノウハウを生かし、限度ぎりぎりの31名をフルに稼働し、石川部長のストップウォッチでまさに分刻みで動いた。終了5分前から芝生の切れ目からグラウンド整備が始まり、最後の投手がマウンドから投げるときにはバッテリー間のみを残し、終了30秒前にラストが投げられると、残りの部分を一齐に整備し、終了のサイレント共にグラウンド整備を仕上げた。

3月16日（火）

表敬訪問で激励を受ける



甲子園練習を翌日に控えたこの日は関係各所を表敬訪問。行く先々で激励を受けた。宇治市役所を皮切りに、立命館大学朱雀キャンパス～毎日新聞京都支局～KBS京都～NHK京都放送局～京都府庁～京都新聞社と7箇所を訪問した。宇治市役所では久保田市長から、京都府庁では山田知事から直々に激励のお言葉をいただき、ひとりひとりに握手をしてくださった。ナインは4時半にホームグラウンドへ帰着し、すぐに練習を始めた。

※写真は久保田宇治市長の前で決意表明する小嵯主将

3月15日 (月)

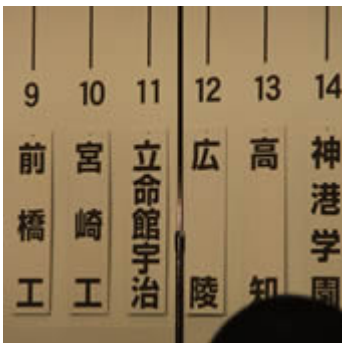
報徳学園迎えて本番さながらに



13～14日は和歌山県遠征で4試合行い、全試合に2桁得点したが、チーム力がアップしたと即判断できるほど甘くはない。今日はホームグラウンドに報徳学園を迎えて、本番へ絶好の腕試しの機会となった。試合は初回に相手失策で1点を先制され、3回に逆転されたが、中盤に岩本のタイムリーで追いつくと、続く回には西川の勝ち越しソロ、終盤には小嵯の2点タイムリーとリードを広げた。先発川部は今春初めて完投を目指して投げ、8回まで2失点。9回に守備の乱れから2点を取られたが、何とか逃げ切った。「この3連投で何とか感じはつかめた」と川部も安堵の表情だった。

3月13日 (土)

抽選終わり、一気に本番ムード



12日の午後から日本高等学校野球連盟で部長監督会議とキャプテントークが行われた。過去に何度もこの会議に出席している卯瀧監督も「改めて勉強になったルールがあった」と語り、石川部長は渡された資料を何度も読み返した。翌日は毎日新聞大阪本社オーバルホールでの抽選会。19番目に本抽選を引いた小嵯主将は対戦相手が決まっても表情ひとつ変えないのは京都大会1次戦～2次戦～近畿大会と同じ。報道陣の質問に対しても「どこと当たっても全部勝つつもりでいた。強いところと当たって良かった」と、夏休みの練習試合で連敗していることをむしろ好材料としているかのような逞しさを示した。

3月6日（土）

保護者会主催の激励会実施



夕刻より宇治市内で保護者会主催の激励会が実施された。汐崎校長、小林教育後援会長らを招き、保護者はほぼ全家庭が出席した会は18時半より始まり、保護者会からマシンの贈呈も正式に行われた。また卯瀧監督より全部員の紹介が行われ、小碓主将にはお母さん方が作られた千羽鶴が手渡された。最後に小碓主将から感謝の言葉と選抜へ向けての決意が述べられ、盛会のうちに終了した。またこの日は楽しみにしていた選抜グッズが届き、部員たちはバッグいっぱい詰められた新しいグッズを持ち帰った。

3月5日（金）

市内各所に激励の横断幕登場



この日から本校正門を出た正面の宇治植物園のフェンスに「甲子園出場おめでとう」の横断幕が掲げられた。本校へ出入りする人なら誰もが目の当たりになる位置で掲げられており、身が引き締まる思いがする。また前回の出場時と同様に、宇治市の玄関ともいえるJR宇治駅の正面の宇治端通り商店街入り口のアーケードにも「祝・甲子園出場」の横断幕が掲げられている。久保田市長を名誉顧問とする市民の応援する会も準備が進められており、本校生徒の乗る約30数台のバスに加え、地元市民のバスも前回同様の30数台が予定されている。

2月27日（土）

登録したい?? 新戦力登場



選抜に向けて保護者会から寄贈された新しいマシンが登場した。特徴は球種をコンピューターで入力しておけば、その球種を投げ分けてくれるというもの。しかもコントロールは抜群。従来もこの手のマシンは出回ったこともあったが、1球ごとに球種が変更されるため、投球感覚がストレートオンリーより長かったが、これはどのように設定してもほんの数秒。関西の高校チームでは「初」と言われるマシンが、選抜に向けて威力を発揮するか?? というより、このマシンを見て「変化球のキレといい、コントロールの良さといい、テンポの良い投球間隔といい、登録して甲子園に連れて行きたい」と考えたのは石川部長だけが...

2月27日（土）

午前中を勉強タイムに変更



昨日から降り始めた雨は深夜にはかなり激しくなり、明け方まで止まなかった。練習開始の9時には青空も見えていたが、いくら水はけの良いグラウンドでも無理は禁物。午前中は月曜日から始まる学年末テストに向けての勉強の時間に変更された。あらかじめこの事態に備えて勉強の準備をしてきた部員は、思い思いの場所を見つけてしばし勉強に集中した。中にはベンチのスコアラーの机で勉強する者も。多くはクラブハウスで勉強したが、その効果はいかに現れるか...

2月23日（火）

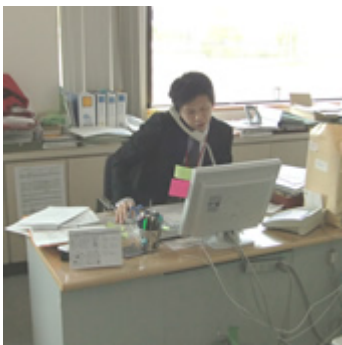
市内コンビニに応援ポスタ



学校近辺のコンビニに「頑張れ立命館宇治」のポスターを発見。写真は試合用ユニフォームを着用して練習に励む部員達である。聞けば他社や他の店舗でもほぼ一斉に貼り出されているという。また地元の商工会議所などでも大会に向けて盛り上げる企画が進行中という。多くの人々に温かく見守られている自覚をさらに強め、大会に向けて頑張らなければならない。今週に入ってテスト1週間前となり、補習で放課後に残らなければならない者や全体練習短縮、居残り練習禁止など、限られた時間の中でさらに頑張らなければならない。

2月17日（水）

正真正銘「最も支える人々」



今週に入って毎日新聞では京都版で「支える人々」として、監督以外のスタッフを紹介しているが、今回の選抜出場に際して最も事務方で支えてくれているのが、写真の一ノ瀬和憲氏。1月に入ってからはほぼ硬式野球部の選抜関連にかかりっきり。前回も上妻氏（現立命館慶祥事務長）が事務方を一手に引き受けてくれたが、今回もその時のノウハウが残っているとはいえ大変な作業の毎日。校内の諸事は勿論、毎日新聞社選抜実行委員会とのやりとり、外部団体との調整など超多忙。毎日新聞のコピーでいえば「現在最も支える人」ということになる。

2月13日（土）

春季大会抽選会で決意表明



春季京都府大会の抽選会が洛西高校で行われた。選抜出場校は例年2次戦からの登場となり、この日の抽選会参加も2次戦のクジを引くためのものである。1次戦の組み合わせが決定して、2次戦の抽選に入る冒頭で、司会から「第82回選抜大会に出場する立命館宇治の小寄裕之主将です。ひと言挨拶していただきます」と紹介され、小寄が「京都の代表として、近畿の代表として精一杯甲子園でプレーしてきます」と決意表明をした。抽選会に参加した市部各校の部長・主将から激励の大きな拍手をいただいた。

2月7日（日）

甲子園グッズを全員が採寸



若干のモデルチェンジをする試合用ユニフォームを含め、甲子園用グッズの採寸が、この日の昼食前に行われた。今回は個人の持ち物としては4メーカーの商品を使う。デザインについてもメーカーと何度も話し合い、サンプルを見て、この日ようやく全グッズの詳細が決定した。

部員の中には何度も履いて「微妙だなあ。迷うなあ」との声もあったが、約2時間で全体は終了した。全ての商品が出来上がるのが3月6日。楽しみである。

2月1日（月）

祝電40通。早くも寄付??



週末のお祝いムードから平静に戻った週明けに石川部長のデスク上に祝電が1通。「これは有り難い」と読んでいたら、事務室から大きな紙袋に溢れんばかりの祝電が…。この週末に届いたもので、京都府知事、京都市長、宇治市長をはじめ、関係各所から多数届けられていた。改めて反響の大きさを実感した。

また事務室には朝から他府県からの男性が1名訪れ、「この日を待っていた。早速寄付に来ました。応援バスのことが決まったらすぐに知らせたい」と寄付金をおいて帰ったとか。有り難い話しである。

1月31日（日）

選抜決定を受けて保護者会実施



選抜決定を受けた翌々日。生徒寮で緊急の保護者会が実施された。年2回の保護者会とは異なり、今回は野球部から呼びかけてのもので、47家庭から46家庭からの参加があった。まずは選抜決定を祝うと共に、今後考えられるいくつかの課題について確認。そして最後に石川部長から、「大変ご迷惑をかけますが」と寄付についてのお願いがされた。また保護者からも現場に様々な質問があり、予定時間を超えての質疑応答もあった。

1月31日（日）

甲子園経験OBが激励に



OBふたりが選抜出場が決まった現役の激励に駆けつけてくれた。湯川元哉OB（写真左）は1979年夏の選手権大会に初出場した時のレギュラーで、当時は1年生ながら2番・センター。その後は府下No.1のスラッガーとして名をはせ、卒業後は早稲田大学へ進学。大学でも1年秋から4番を打った。そして社会人野球の名門・大阪ガスで選手・監督として活躍した。もう一人は藤原大輔OB。ご存じ6年前の主将である。立命館大学で活躍し、昨年春より大阪ガスで頑張っている。

1月30日（土）

今回は球場内にも横断幕



学校には登校してくる生徒がバス停から階段を上がる最も目立つ場所に選抜出場を祝う12メートルの横断幕が掲げられたが、今回は8メートル横断幕が野球場にも登場。石川部長が「普段お世話になっている近隣住民の方にも見ていただけ、共に祝っていただけるように」と外野フェンスに貼られた。「第〇回」「選手権」「選抜」という文言は省き、どの大会にも使えるように、球場保存用として作成された。

6年ぶり2度目の春便り



写真提供:ベースボール倶楽部

春、ふたたび……。1月29日（金）午後4時、第82回選抜高等学校野球大会の選考委員会から「出場決定」の知らせが届いた。

昨年秋の近畿大会以降、この日が来るのを楽しみにしていた部員は放課後、試合用ユニフォームに着替えて多目的グラウンドに集合し、卯瀧監督の下ウォーミングアップを開始。汐崎校長の下に連絡が入ったのは午後3時40分。詰めかけたテレビ2局を含む報道20社、保護者約30名、学園関係者が見守る中で、校長から部員に「出場決定」が伝えられた。

その後は取材陣の要望に応じての記念撮影、インタビューがあり、ちょうど下校する生徒達にも囲まれて、祝福モードは一気に高まった。

その後、部員達はバスで野球場に移動しいつも通りに練習を行ったが、学校は関係各所への連絡、また球場周辺の挨拶回りに追われ、慌ただしい一日となった。

硬式野球部 TOP PAGE [^](#)

硬式野球部のスケジュール

年	月	日	曜	カウントダウン	選抜関連の動き	部の活動	学校行事		
							全般	選抜関連	
2	2	20	土	29					
		21	日	28					
		22	月	27	応援説明会(甲子園球場)	※定期考査1週間前		生徒応援団SSA募集	
		23	火	26				第4回応援実行委員会	
		24	水	25					
		25	木	24	プラカード担当者〆切				
		26	金	23				生徒応援団SSA〆切	
		27	土	22					
		28	日	21					
	3	3	1	月	20			1.2年学年末テ	
			2	火	19			"	第5回応援実行委員会
			3	水	18			"	
			4	木	17			"	第1回生徒応援団会議
			5	金	16				
			6	土	15	宿泊者名簿〆切	保護者会主催激励会、選抜グッズの納品		
			7	日	14		高野連審判講習会モニター		
			8	月	13		練習試合解禁	テスト返却授業	第2回生徒応援団会議
			9	火	12		選抜旗授与式予行		選抜旗授与式リハ
			10	水	11			高校卒業式予行	
			11	木	10			高校卒業式	
			12	金	9	部長監督会議、キャプテントーク	選抜旗授与式		選抜旗授与式学校壮行会
			13	土	8	抽選会(毎日新聞大阪本社)	和歌山遠征1【練】富田林、国際開洋二		
			14	日	7		和歌山遠征2【練】星林、刀根山		
			15	月	6		【練】報徳学園		
			16	火	5		中高合同壮行会(表敬訪問)		中高合同壮行会、応援練習会
			17	水	4	甲子園練習1・投手関節機能検査	甲子園練習12:00~12:30	中学卒業式予行	
			18	木	3	甲子園練習2・投手関節機能検査	【練】京都すばる	中学卒業式	
			19	金	2		宿舎入り(予定)		
20			土	1	開会式リハーサル、選手変更届け〆切				
21			日	0	開会式				
22			月祝		大会第2日				
23			火		大会第3日				
24			水		大会第4日		終業式		
25			木		大会第5日		春季休暇に入る		
26			金		大会第6日				
27			土		大会第7日				
28			日		大会第8日				
29			月		大会第9日				
30	火		大会第10日						
31	水		大会第11日						

平成21年度

秋季近畿地区高等学校野球大会 速報

11月1日（日） 準決勝 対大阪桐蔭 （皇子山球場）

弱点を全て露呈し、完敗!!

(大阪府1位)
○大阪桐蔭 220 050 0=9
●立命館宇治 000 010 0=1 (7回コールド)
(京都府1位)

【大】中野、山中-江村【立】川部-小嵯

▼3塁打 市川、山口 (大) ▼2塁打 江村2 (大)



快進撃の根幹であったディフェンスが序盤から乱れ、良いところなく完敗した。特に5回には3安打に3失策が絡み、ビッグイニングを与えてしまった。先発の川部は11安打されたが、自責点は4。

立ち上がりから4点を追いかける展開となった打線は5回にようやく3連打で1点を返したが、今までなら抜けていた当たりも難なく処理する固いディフェンスの前になすすべも

なかった。

「近畿大会2勝」を目標にしてきたチームと全国で勝つことを目標にしているチームのモチベーションの差が露骨に出た。ベスト4進出により笑顔の円陣から戦いに挑む姿勢に序盤から勝負はあった。

※写真はピンチの連続にマウンドに集まる内野陣。

10月25日（日） 準々決勝 対智辯和歌山 （皇子山球場）

打順の組み替えズバリ的中!!

(和歌山県1位)
●智辯和歌山 100 110 012=6
○立命館宇治 011 000 50X=7X
(京都府1位)

【智】青木、吉本-道端【立】川部-小嵯

▼2塁打 城山、山本 (智) 清水 (立)

1点を追う立命館宇治は7回裏、1死から1番・土肥が中前打で出塁すると、2番・服部が送り、2死2塁。続く3番・西川の死球、4番・古川の四球で満塁とすると、5番・小嵯が鮮やかに中前へはじき返し逆転。6番・田口の左前打で2点差。7番・清水の左中間2塁打で4点差とリードした。

試合は打力に勝る智辯和歌山に先制されたが、「終盤まで1点差で食らいつけば必ず逆転できる」という監督の言葉を信じ、中盤までゲームメイ



クしたことが生きた。また今大会打率2割と全く当たっていなかった9番・清水を「今日は鍵を握る男になる」と打順を上げた采配も的中した。終盤に智辯和歌山の意地の猛反撃にあったが何とか凌いだ。

先発・川部は強力打線の智辯和歌山に対し、ビッグイニングを与えず、今大会初の奪三振0ながら、四球も1と制球が安定し、バックも1回戦に続いて無失策で応えた。

立命館宇治は6年ぶりに近畿大会でベスト4に進出し、奇しくも6年前と同じ準決勝で同じ大阪桐蔭（大阪府1位）との対戦が決まった。

※写真は7回裏、小寄のタイムリーで逆転のホームインをした西川進士郎（2年）

10月17日（土） 1回戦 対東海大仰星 （皇子山球場）

終盤にようやく突き放す!!

（京都府1位）

○立命館宇治 000 010 014=6

●東海大仰星 000 000 001=1

（大阪府3位）

【立】川部-小寄【東】勢-田上

▼2塁打 田上2（東）土肥、西川（立）



立命館宇治は5回、先頭の1番・土肥が左翼越2塁打を放ち、送りバントで1死3塁の先制機を迎えると、3番・西川が鮮やかに中前にはじき返して先制。また8回には1死1・3塁から2番・服部が貴重な追加点となる中前タイムリーを放った。9回には相手失策と四球で得た2死1・2塁にエンドランを敢行。緩いゴロが三遊間に転がる（記録は内野安打）間に、田口が一気に生還し、3点目。なおも

四球で満塁と攻め立て、西川が左柵直撃の走者一掃の2塁打で勝負を決めた。

打線は3・4回以外は毎回スコアリングポジションに走者を置きながら、タイムリーが出ず、終盤まで苦しむ大きな要因となり、また送りバントの精度が上がっていなかった。

先発・川部は本来の出来とはほど遠かったが、7回1死から突如3連続四球で満塁のピンチ（連続三振で切り抜け）と勝ちを意識した9回にタイムリーで1点を取られたが、バックの無失策もあり完投した。

※写真は3点目のホームインで喜ぶ田口（2年）

番号	守備	名前	学年	出身中学	出身チーム	投	打
1	投	川部 開大	1	島本二 (大阪)	シニア・高槻	左	左
2	捕	小嵯 裕之	2	下 京	少年野球・西京ビッグスターズ	右	右
3	一	服部 憲悟	2	榎 島	ボーイズ・南山城ドラゴンズ	右	左
4	二	清水 祐太	2	今 津 (大阪)	ボーイズ・八尾フレンド	右	右
5	三	古川 昂樹	1	上牧二 (奈良)	ボーイズ・香芝	右	左
6	遊	土肥 純平	1	男山三	中学野球部	右	右
7	左	西川進士郎	2	佐井寺 (大阪)	ボーイズ・吹田千里山イーグルス	右	右
8	中	岩本 翼	2	高 野	中学野球部	右	左
9	右	田口 真基	2	久御山	少年野球・西京ビッグスターズ	右	左
10	投	中野 翔悟	2	京教大附桃山	ボーイズ・オール枚方	右	右
11	投	堺 浩貴	2	勝 山	少年野球・長岡京シリウス	左	左
12	投	岩見 晋悟	2	久美浜	少年野球・久美浜クラブ	右	右
13	捕	小林 真人	1	島本二 (大阪)	中学野球部	右	右
14	内	赤松 博文	1	池島 (大阪)	ボーイズ・バファローズ	右	右
15	内	田中 遼太	1	大 枝	ボーイズ・京都ホークス	右	左
16	内	奥村 大志	2	洛 北	少年野球・京都西ベースボールクラブ	右	右
17	外	坂井 勇太	2	枚方三 (大阪)	シニア・枚方	右	右
18	外	本庄 良仁	2	立命館宇治	中学野球部	右	右

平成21年度

秋季京都府高等学校野球大会 速報

2次戦

10月4日 (日) 決 勝 対福知山成美 (わかさスタジアム京都)

ロングリリーフ川部が強力打線を0封!!

●福知山成美 111 000 000=3

○立命館宇治 310 200 02X=8X

【福】津田、小林、山田-細田【立】岩見、川部-小嵯

▼2塁打 小嵯、土肥、古川、田口 (立)

立命館宇治は初回2死から連打でチャンスを作ると、5番・小嵯が左翼フェンス直撃の2塁打を放ち、相手失策も絡まって3点を先制した。続く2回には2死3塁から4番・古川の2塁打で4点目。4回には内野安打と7番・田口



のタイムリーで2点を追加した。何としてもだめ押し点のほしい8回には2死2・3塁から田口の中前打で勝利を大きくたぐり寄せた。

立命館宇治の先発・岩見は立ち上がりから制球が悪く、真ん中に球が集まるところをねらい打たれた。3回2死からリリーフに出た川部は懸命の投球で6回1/3を被安打3で0封した。

立命館宇治は旧・宇治時代を含めて6年ぶり3度目の優勝を果たし、17日から始まる近畿地区高等学校野球大会に京都府1位校として出場する。

※写真は3回2死からロングリリーフした川部（1年）

10月3日（土） 準決勝 対東山（わかさスタジアム京都）

終盤の猛攻に薄氷の逃げ切り!!

○立命館宇治 210 100 000=4

●東 山 000 010 101=3

【立】岩見、川部-小嵯【東】北垣内、柿崎-山崎

▼2塁打 北垣内、吉越2（東）



立命館宇治は初回2死2・3塁のチャンスに5番・小嵯が中前へはじき返して2点を先制。続く2回にも1死2・3塁から1番・土肥が犠飛を上げて3点目を追加した。4回には2死1・3塁に4番・古川のタイムリーで4点目を加え、一方的展開に持ち込むかに思えた。

先発の岩見は序盤から快調な投球を見せたが、7回2死から乱れて降板。1次戦以来の登板となった川部のリリーフを仰いだ。川部は2点差の最終回1点を取られ、なおも2死満塁と一打逆転サヨナラ負けのピンチを迎えたが、4番打者を右飛に打ち取り逃げ切った。

これで立命館宇治は10月17日より滋賀県・皇子山球場で行われる秋季近畿地区高等学校野球大会への出場権を獲得した。

※写真は先制タイムリーを放った小嵯（2年）

9月26日（土） 準々決勝 対洛星（わかさスタジアム京都）

先発・岩見が被安打2で完投!!

●洛 星 000 000 001=1

○立命館宇治 002 000 00x=2X

【洛】安居-山口【立】岩見-小嵯



立命館宇治は3回2死から1番・土肥が右前打で出塁すると、続く服部も鮮やかに1・2塁間を破り、相手失策の間に先制。続く3番・西川のタイムリーで2点目を加えた。しかし以降は洛星・安居投手のスライダーとストレートのコンビネーションにタイミングが合わず、9回までの5イニングで1安打のみ。特にチャンスでのフライアウトが目立った。

逆に不安視された投手陣は、この試合直前に登録され、先発した岩見が立ち上がりから130台半ばのストレートと変化球を巧みに配し、被安打2で完投。四死球は6であったが、バックは無失策で応えた。これで今大会5試合で4人目の勝利投手となった。

※写真は今大会初登板で完投勝利した岩見（2年）

	番号	名前	学年	出身中学	出身チーム	投	打
新	12	岩見 晋悟	2	久美浜	少年野球・久美浜クラブ	右	右
旧		林 俊之介	1	立命館	中学野球部	右	右

9月20日（日） 2回戦 対桂 （太陽が丘球場）

中盤以降、らしさを発揮

- 桂 100 000 0=1
 - 立命館宇治 000 102 5=8x （7回コールド）
- 【桂】浜口-平塚【立】堺-小寄
▼3塁打 岩本（立）▼2塁打 田口（立）



初回、併殺崩れの際に1点を先制された立命館宇治は、3回まで桂のエース・浜口の緩急自在の投球に翻弄され無安打。しかし4回に相手失策から同点に追いつくと、6回には1死満塁から8番・堺の右前打で勝ち越し。続く7回には長短4安打とバッテリー間の乱れで一気にコールドに持ち込んだ。

公式戦初登板の先発・堺は立ち上がりにリズムをつかめなかったが、3回以降は立ち直り、ブロック1位校の桂を突き放した。

※写真は公式戦初先発の堺（2年）

番号	守備	名前	学年	出身中学	出身チーム	投	打
1	投	川部 開大	1	島本二 (大阪)	シニア・高槻	左	左
2	捕	小嵯 裕之	2	下 京	少年野球・西京ビッグスターズ	右	右
3	一	服部 憲悟	2	模 島	ボーイズ・南山城ドラゴンズ	右	左
4	二	清水 祐太	2	今 津 (大阪)	ボーイズ・八尾フレンド	右	右
5	三	古川 昂樹	1	上牧二 (奈良)	ボーイズ・香芝	右	左
6	遊	土肥 純平	1	男山三	中学野球部	右	右
7	左	西川進士郎	2	佐井寺 (大阪)	ボーイズ・吹田千里山イーグルス	右	右
8	中	岩本 翼	2	高 野	中学野球部	右	左
9	右	田口 真基	2	久御山	少年野球・西京ビッグスターズ	右	左
10	投	中野 翔悟	2	京教大附桃山	ボーイズ・オール枚方	右	右
11	投	堺 浩貴	2	勝 山	少年野球・長岡京シリウス	左	左
12	投	林 俊之介	1	立命館	中学野球部	右	右
13	捕	小林 真人	1	島本二 (大阪)	中学野球部	右	右
14	内	赤松 博文	1	池島 (大阪)	ボーイズ・バファローズ	右	右
15	内	田中 遼太	1	大 枝	ボーイズ・京都ホークス	右	左
16	内	奥村 大志	2	洛 北	少年野球・京都西ベースボールクラブ	右	右
17	外	坂井 勇太	2	枚方三 (大阪)	シニア・枚方	右	右
18	外	本庄 良仁	2	立命館宇治	中学野球部	右	右

1次戦

9月6日 (日) 決勝 対塔 南 (立命館宇治)

2次戦進出も投手陣に不安!!

○立命館宇治 001 103 020 7=14

●塔 南 001 003 120 3=10 (延長10回)

【立】川部、中野-小嵯【塔】森脇-駒月

▼本塁打 駒月 (塔) ▼3塁打 小嵯、土肥 (立) 上山、草原 (塔)

▼2塁打 小嵯、岩本2 (立) 上山、森脇、駒月 (塔)



7-7で延長戦に突入した10回、立命館宇治は1死2塁のチャンスに5番・小嵯が左中間を破る勝ち越しタイムリーを放つと、6番以下が3連打。9番が倒れたあと、1番から3連打とこの回長短8安打を集中し、後半点取り合戦となった試合にけりをつけた。春に対戦が実現しなかった塔南エース森脇に対し、初回から

果敢に攻め、終わってみれば先発全員の21安打を放った。

しかし一方で立命館宇治のエース川部は打たれ出すと冷静さを欠く投球は前回と変わらぬまま。最大4点のリードを守れず8回に降板した。この日はリリーフした中野も10回に7点のリードから3点を奪われ、2次戦に向けて投手陣に不安を残す結果となった。

※写真は10回に勝ち越しタイムリーを放った小嵯（2年）

8月29日（土） 2回戦 対立命館 （立命館宇治）

中盤から猛攻!! 連続コールド

●立命館 001 300 00=4

○立命館宇治 000 420 32=11x（8回コールド）

【立】小谷、太田-小林【宇】川部、中野-小嵯

▼3塁打 小林（立）▼2塁打 辯（立）清水（宇）



4点を先行された立命館宇治は4回1死、連続四球から得たチャンスに6番・岩本がタイムリーを放ち、続く7番・清水、8番・奥村とたたみかけ、一気に同点に追いついた。5回には1死2・3塁から岩本のタイムリーと清水の犠牲フライで勝ち越した。これで勢いづいた立命館宇治は7～8回にも連打を浴びせて勝負

を決めた。

先発した川部は立ち上がりこそ無難なスタートを切ったが、4回には長短4安打を集中され、降板。リリーフした中野が冷静な投球で火の付きかけた立命館打線をかかわした。

※写真は同点タイムリーを放った奥村（2年）

8月23日（日） 1回戦 対園部 （立命館宇治）

初回から猛攻!! 5回コールド

●園部 000 00=0

○立命館宇治 420 5x=11x（5回コールド）

【園】片山-明田【立】川部-小嵯

▼2塁打 田口、岩本、清水（立）



序盤から連打でたたみかけ、勝負を一気に決めた。

初回1死3塁から3番・西川、4番・田口、5番・小嵯、6番・岩本と4連打で4点を先制し、続く2回にも3～4番の連続長短打で2点を追加。さらに4回には3安打と三四死球で5点を取った。

先発した川部は変化球をほぼ封印し、ストレートのみで勝負。打者18人に対し、イレギュラーバウンドによる内野安打1のみで0封した。

1次戦メンバー

番号	守備	名前	学年	出身中学	出身チーム	投	打
1	投	川部 開大	1	島本二 (大阪)	シニア・高槻	左	左
2	捕	小嵯 裕之	2	下 京	少年野球・西京ビッグスターズ	右	右
3	一	服部 憲悟	2	模 島	ボーイズ・南山城ドラゴンズ	右	左
4	二	清水 祐太	2	今 津 (大阪)	ボーイズ・八尾フレンド	右	右
5	三	蔵立 涼太	1	松 原	ボーイズ・京都スターズ	右	右
6	遊	土肥 純平	1	男山三	中学野球部	右	右
7	左	西川進士郎	2	佐井寺 (大阪)	ボーイズ・吹田千里山イーグルス	右	右
8	中	田口 真基	2	久御山	少年野球・西京ビッグスターズ	右	左
9	右	岩本 翼	2	高 野	中学野球部	右	左
10	投	中野 翔悟	2	京教大附桃山	ボーイズ・オール枚方	右	右
11	投	堺 浩貴	2	勝 山	少年野球・長岡京シリウス	左	左
12	投	福本 拓也	1	山崎東 (兵庫)	中学野球部	左	左
13	捕	小林 真人	1	島本二 (大阪)	中学野球部	右	右
14	内	赤松 博文	1	池島 (大阪)	ボーイズ・バファローズ	右	右
15	内	田中 遼太	1	大 枝	ボーイズ・京都ホークス	右	左
16	内	奥村 大志	2	洛 北	少年野球・京都西ベースボールクラブ	右	右
17	外	坂井 勇太	2	枚方三 (大阪)	シニア・枚方	右	右
18	外	本庄 良仁	2	立命館宇治	中学野球部	右	右

2010年3月度のトピックス

第82回選抜高等学校野球大会 特集

3月29日

悩みどころか。出てこい!! 新戦力



選抜決定以降、3月の練習試合は全てキャンセルしていたため、この日の練習試合が1週間ぶりの実戦となった。春の選抜で晒した弱点を克服すべく早速コンバートが行われたが、期待の新戦力は現有部員からはなかなか現れてこなかった。特に「次代を担う」と期待していた選抜ベンチ組が全く精彩なく、試合後のミーティングで卯瀧監督からそれぞれが名指しで「全くの期待はずれ」と奮起を期待して叱責された。現段階では打撃練習も守備練習も全員平等の機会が与えられているが、ノックでもイージーさえ捕れない守備陣に「このままでは厳しい」という焦りだけが募る。

3月25日

新入部員24名を迎え、71名の大所帯



25日より新入部員が参加し、一気に大所帯になった。事前掌握していたのは22名だったが、この間のHPを見て「自分も25日から参加したい」と名乗りを上げた者がさらに2名。上級生の47名と合わせると、現段階では71名となる。

「ボールの握り方」「スナップスロー」などの基本動作を教えるのは例年通り。この時期の練習は全員平等が原則であり、新入生にもバッティング練習の機会が与えられている。この中から春のメンバーに食い込んで来る者がいるかどうか。決して「層が厚い」とはいえないだけに、2～1年の新戦力に台頭にも期待したい。

3月25日

二宮先生、ありがとうございました



07年春より数学の常勤講師として着任し、担任をしながら硬式野球部の顧問として奮闘して下さった二宮康行先生が、3月24日をもって退任された。去る20日におめでたく結婚され、22日の選抜大会の試合では「これが本当に最後」とアルプススタンドから部員達の雄姿を見守った。選抜を前に部室で最後の挨拶の場があり、二宮先生は「野球部員には学校生活でまだまだ足りない部分がある。全ての人に愛されるようにならないといけない」と言葉を贈った。二宮先生は4月より埼玉県の小中一貫校に勤務されるため、選抜大会後、関東へ移動された。

3月19日

虎視眈々。狙うは次の晴れ舞台



今週半ばから選抜に向けての調整練習に入っている。しかし全員が調整練習を行っているわけではない。目標をすでに選抜以降の大会においている者は調整練習など必要なく、冬に鍛えた身体をフルに生かして、技術的にもどんどん追い込める。午前中はメンバーの練習を手伝って、午後からはコーチ陣の見守る中、ノックにシート打撃に汗を流した。先の和歌山遠征でもBチーム戦が行われ、頭角を表してきた者もあり、楽しみである。

3月15日

こちら、本日がデビュー戦です



昨年11月に完成したスコアボードがこの日の報徳学園との練習試合で初お目見えとなった。従来の1塁側のボードはもう使用されなかった。チーム名はスタッフルーム内にあるPCでプリントアウトすることになっており、朝からバタバタする場面もあったが、球場周辺から観戦していた人たちも試合経過は充分にわかったはず。

これからフルに活用していきたい。

3月11日

3年生部員17名がグラウンドに別れ



この日は卒業式が行われた。例年は式場外の花道に参加するが、近年はその後卒業生が全員揃ってグラウンドにスタッフに挨拶に訪れるのが恒例となっており、今年から現役部員もグラウンドで巣立つ先輩17名を迎えた。この日のために準備した現役部員全員からの寄せ書きと写真盾、そして選抜用の記念タオルが贈られた。現役部員を代表して小寄主将から、スタッフを代表して卯瀧監督から挨拶があり、卒業生を代表して山口前主将から「選抜でも頑張る欲しい」とエールが送られた。全員が握手を交わし、グラウンドで記念撮影が行われた。

[硬式野球部 TOP PAGE](#)へ

2010年2月度のトピックス

2月15日

新入生は21人?? 合格発表後の説明会



毎年恒例になっている高校入試合格発表後の入部説明会が、16時よりA401教室で行われた。インターネットで見て、例年この説明会に飛び入り参加する新入生もいる。今年は事前掌握している合格者は15名で、このメンバーに付属中学生5名が加わる予定であったが、是非とも参加したいと名乗りを上げた1名を加えて、新入部員は現段階では21名の予定。31名と大幅に多かった昨年ほどではないが、一昨年までと比べると上昇傾向にある。全員がチームグッズの採寸を終えて、3月25日からの練習参加に備えた。

2月7日

付属中学生が練習に初参加



立命館宇治中学の生徒で来年度入部希望の部員5名が、この日から練習に参加した。昨年度は10月1日に一度体験入部してもらい、その後は中学行事に合わせて随時参加してもらっていたが、今年は他のクラブとのかね合いもあり、例年より遅い参加となった。

先輩の中には高校硬式野球部で副主将を務めたり、今回の選抜でもベンチ入りが見込まれる選手も出てきている。今回の中学3年生も付属であるが故に、早くから部長監督に注目される選手もあり、期待される。

1月7日

学年末テスト明けの3年生が大学練習に



2月5日に学年末テストを終えた3年生が大学の練習に初参加した。今年度は8月に新型インフルエンザで中止になった海外研修旅行が2月下旬にあり、またTOEFL講座などもあるため、今日以降ずっと参加とはならないが、スポーツ推薦生は2月1日より練習に参加しており、もうすでに半歩遅れている。少しでも早く大学野球の環境に慣れ、活躍してくれることを願うのみだ。

2010年1月度のトピックス

1月9日

身体も心も温まる....。保護者会で炊き出し



この日は保護者会有志で炊き出しが行われた。保護者会の有志によるもので「豚汁」と「ぜんざい」。かつては毎年のように行われていたが保護者への負担も考え、今回はあくまでも「有志で」でいうことで企画準備された。約120人前の料理で、里井コーチ曰く「胃袋がパンパンになりました」というほどのボリューム。炊き出し用に保存した大きな鍋やプロパンガスも久々に登場した。また秋季大会終盤では手分けして他府県の準決勝・決勝を視察に行ってくれた3年生も招待。現役保護者と選手から改めてお礼が述べられ、しばし身も心も温まる時間を過ごした。

1月4日

正月休み明け、全体練習再開



年末年始休みは一部の寮生を除いて、大晦日と三が日のみ。4日9時から全体練習が再開された。特に病気や大きな怪我もなく、日中は日が差すと暖かささえ感じる中、いつも通りのメニューが行われた。年末から取り組んでいる1万5千本ティーに加え、この日からロングティーが加わり、卯瀧監督からは「どこまで遠くに飛ぶかを試すためのものではない。どういう回転の打球が行くのかを見極めること」と説明があった。5日は帰省していた3名も合流する。

硬式野球部 TOP PAGEへ